都道府県が設定している要防除水準（水稲害虫）

（2025年度調べ）

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	イネシンガレセンチュウ	育苗時	−	−	種子消毒時	・種子更新は採種ほ産の購入種子を使用する。・温湯消毒は有効。拮抗微生物農薬による種子消毒では、化学合成農薬（スミチオン乳剤等）を組み合わせる。	大阪府
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	スクミリンゴガイ	移植後２週間以内	見取り調査	成貝数（殻高２．５ｃｍ以上）１．５個／１平方メートル以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	スクミリンゴガイ	稚苗移植前～移植３週間後	殻高１５～２０ｍｍ以上の貝の生息密度を調査する	２．５個体／平方メートル	即時	被害許容水準を５％減収とした場合	和歌山県
水稲	スクミリンゴガイ	田植え直後～田植え後２から３週間	見取り調査	１．５個／平方メートル	即時		愛媛県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	コバネイナゴ	７月上旬～下旬	２０回振りすくい取り調査	１００頭	即時	茎葉散布剤	秋田県
水稲	イナゴ	７月上旬～下旬	２０回振りすくい取り調査	１００頭以上	即時		山形県
水稲	イナゴ類	７月上旬	２０回振りすくい取り調査（畦畔際）	１００頭以上	即時		栃木県
水稲	イナゴ類	７月上旬以後	２０回振りすくい取り調査	１００頭以上	随時		千葉県
水稲	コバネイナゴ（圃場単位）	７月上～中旬	畦畔際の２０回振りすくい取り虫数	１００頭以上：防除必要	７月上～中旬に畦畔際を重点に散布		新潟県
水稲	コバネイナゴ	６月下旬	ほ場内の任意の４地点において、畦際で捕虫網を各５回（計２０回）振って調査する	すくい取り：１００頭以上／２０回	即時	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲	イナゴ類	穂ばらみ期～出穂期	すくい取り（２０回振）	１００頭以上	随時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	イナゴ類	穂ばらみ期～出穂期	捕虫網による２０回すくい取り調査	１００頭以上	即時		愛媛県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	イネアザミウマ（黒点米）	早生出穂７日前頃	成虫すくい取り調査（２０回往復）、水田畦畔沿い	１００頭／２０回往復すくい取り	即時		福井県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	ツマグロヨコバイ	７月上～中旬	捕虫網によるすくい取り調査（２０回振り）	（減収率５％を被害許容水準とした場合）すくい取り（２０回振り）虫数５０頭	７月上旬～８月中旬	虫数は成虫と老齢幼虫の合計値とする。	宮城県
水稲	ツマグロヨコバイ	出穂期	捕虫網によるすくい取り調査（２０回振り）	（減収率５％を被害許容水準とした場合）すくい取り（２０回振り）虫数１５００頭	７月上旬～８月中旬	虫数は成虫と老齢幼虫の合計値とする。	宮城県
水稲	ツマグロヨコバイ	出穂期	見取り調査、任意	１６頭／株	即時		福島県
水稲	ツマグロヨコバイ	乳熟期	見取り調査、任意	２４頭／株	即時		福島県
水稲	ツマグロヨコバイ	出穂直前～出穂始め（８月上旬）	見取り調査	成虫が株当たり２０頭以上	即時		栃木県
水稲	ツマグロヨコバイ	出穂直前～出穂始め（８月上旬）	２０回振りすくい取り調査	成虫が２，７００頭以上	即時		栃木県
水稲	黄萎病	前年の刈取後（再生稲）	ほ場当たり任意の３００株を見取り調査	再生稲の発病株率が５％以上			栃木県
水稲	ツマグロヨコバイ	８月下旬頃	２０回振りすくい取り調査、成・幼虫の個体数を調べる	８００頭	即時		群馬県
稲	ツマグロヨコバイ	出穂期前後	見取り調査	成幼虫数３０頭／株	即時		埼玉県
水稲	黄萎病	１０月	見取り調査。任意の５００株について株ごと発病の有無を調査	再生株での発病株率が５％以上である地域	随時		千葉県
水稲	ツマグロヨコバイ（第１世代成虫）（地域単位）	７月中～下旬	２０回振りすくい取り虫数	５頭以上：防除必要	８月上旬頃		新潟県
水稲	ツマグロヨコバイ（第２世代）（地域単位）	７月下旬～８月上旬	２０回振りすくい取り虫数	１００頭以上：防除必要（特に発生量が多い場合、２回防除）	８月中旬頃		新潟県
水稲	ツマグロヨコバイ	７月下旬（第２世代幼虫～第３回幼虫）	２０回振りすくい取り調査、１圃場の任意の場所で調査	４０頭	７月下旬～８月上旬		富山県
水稲	ツマグロヨコバイ	８月上旬（第２世代幼虫～第３回成虫）	２０回振りすくい取り調査、１圃場の任意の場所で調査	２００頭	８月上旬		富山県
水稲	ツマグロヨコバイ	８月４～５半旬（第３回成虫～第３世代幼虫）	２０回振りすくい取り調査、１圃場の任意の場所で調査	２００頭	８月下旬	中晩生	富山県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

水稲	ツマグロヨコバイ	７月下旬２世代幼虫盛期	すくい取り調査	２０回振り４００～５００頭	即時		石川県
水稲	ツマグロヨコバイ	７月～９月	見取り調査	３０頭／株	即時		山梨県
水稲	黄萎病	稲刈り後	ほ場内の任意の２地点において、各２００株（計４００株）調査する	刈株再生芽発病株率：５％以上	翌年移植時（ツマグロヨコバイの防除）	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲	ツマグロヨコバイ	８月上旬	ほ場内の任意の４地点において、畦から１０列目の株を各５株（計２０株）調査する	見取り：２０頭以上／株	即時	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲	ツマグロヨコバイ	８月上旬	ほ場で捕虫網を１０回振って調査する	すくい取り：１００頭以上／１０回	即時	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲	ツマグロヨコバイ	田植後～９月上旬	払い落とし調査、１ほ場あたり２５株	５頭／株以上	即時	・越冬場所となるほ場周辺の雑草を取り除く。	大阪府
水稲	ツマグロヨコバイ	出穂前後（８月下旬～９月上旬）	払い落とし	５０頭／株	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	ツマグロヨコバイ	出穂前後（８月下旬～９月上旬）	すくい取り（１０回振）	５００頭	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
稲	ツマグロヨコバイ	早生品種の穂ばらみ期～出穂期	１圃場あたり任意の１ヶ所について、捕虫網２０回すくい取り調査	捕虫網２０回すくい取り調査で、２，５００～３，０００頭の成虫の発生が見られる場合	即時		岡山県
稲	ツマグロヨコバイ	早生品種の穂ばらみ期～出穂期	１圃場あたり任意の５０株×２ヶ所について、株あたり発生個体数を見取り調査	株あたり２０頭の成虫（成幼虫合計で４０頭）の寄生が見られる場合	即時		岡山県
水稲	ツマグロヨコバイ	穂ばらみ期～出穂期（早生種）	見取り・払い落とし虫数：調査ほ場内よりランダムに選んだ２５株の虫数を調査する。株を３回叩き、Ａ４版の黒色板上に払い落とした虫数をカウントし、株あたり平均虫数を計算する。	４０頭以上／株	即時		広島県
水稲	ツマグロヨコバイ	出穂期	１株おきの１０株払い落とし調査	成虫密度　３０頭／株	出穂期		愛媛県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	セジロウンカ	幼虫ふ化盛期（成虫侵入盛期の約３週間後）	粘着板法により１０株相当を払い落とし、株当たり全幼虫数を算出	幼虫数３５頭／株	即時	茎葉散布剤	秋田県
水稲	セジロウンカ	７月下旬～８月上旬	払い落とし法　２株ずつ２～３ヶ所で調査	幼虫１０頭／株以上	即時		山形県
水稲	セジロウンカ	８月上旬	見取り調査、１圃場あたり２５株について株上の成・幼虫個体数を計数	３０頭／株	即時		群馬県
稲	セジロウンカ	７月下旬～８月	見取り調査	成幼虫数３～５頭／株	即時		埼玉県
水稲	セジロウンカ	７月上・中旬頃	見取り調査。任意の２５株について株ごとに成幼虫を調査し、寄生数を求める	１株あたり１０頭以上の寄生	随時		千葉県
水稲	セジロウンカ（圃場単位）	７月上旬	２０回振りすくい取り虫数	５０頭以上：防除必要．５０頭未満：その後の発生動向に注意	７月中下旬（幼虫増加期）		新潟県
水稲	セジロウンカ（圃場単位）	７月中～下旬	２０回振りすくい取り虫数	３００頭以上：防除必要．５０頭以下：防除不要．中間量：成虫比率などを調査し、病害虫防除所などの指導を受けて要否を判断	幼虫発生期		新潟県
水稲	セジロウンカ（圃場単位）	８月上旬	２０回振りすくい取り虫数	１０００頭以上で幼虫比率が高い：病害虫防除所の指導を受けて要否を判断．１０００頭以上で幼虫比率が低い：直ちに防除する必要ない。その後の発生動向に注意	幼虫発生期		新潟県
水稲	セジロウンカ	７月下旬	２０回振りすくい取り調査、１圃場の任意の場所で調査	８０頭	７月下旬		富山県
水稲	セジロウンカ	７月中・下旬（侵入世代）	すくい取り調査	２０回振り５０頭	即時		石川県
水稲	セジロウンカ	７月下旬～８月上旬（第１世代）	すくい取り調査	２０回振り５００～６００頭	即時		石川県
水稲	セジロウンカ	６月末～７月中旬	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で３ヶ所以上	４頭／株（飛来成虫数）	即時		福井県
水稲	セジロウンカ	７月下旬～８月上旬（幼虫加害盛期）	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で３ヶ所以上	３０～４０頭／株（幼虫数）	即時		福井県
水稲	セジロウンカ	７月下旬	ほ場で捕虫網を１０回振って調査する	すくい取り：５０頭以上／１０回	即時	（防除要否の目安）	滋賀県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

水稲	セジロウンカ	７月下旬	ほ場内の任意の４地点において、畦から１０列目の株を各５株（計２０株）調査する	払い落とし：１０頭以上／株	即時	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲	セジロウンカ	７月下旬～８月上旬	見取り調査	成幼虫数１０頭／株以上	即時		京都府
水稲	セジロウンカ	７月下旬～８月上旬	払い落とし調査、１ほ場あたり２５株	１０頭／株以上	即時	・防除適期は成虫飛来直後～次世代幼虫発生盛期（７月中旬～８月上旬）である。 ・大陸からの飛来害虫である。飛来情報に注意する。	大阪府
水稲	セジロウンカ	７月前半	払い落とし	１０頭／株以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	セジロウンカ	７月上旬～８月上旬	見取り調査、１圃場あたり２５株	１０頭／株	即時		奈良県
水稲	セジロウンカ	７月下旬～８月上旬	１圃場あたり、２５株×２ヶ所の計５０株で調査	１０頭／株以上	即時		鳥取県
水稲	セジロウンカ	７月上旬～下旬（成虫飛来期）	払い落とし、１圃場あたり２５株調査	成虫　５頭／株	飛来盛期の２週間後		島根県
稲	セジロウンカ	７月下旬～８月中旬	１圃場あたり任意の５０株×２ヶ所について、株あたり発生個体数を見取り調査	株あたり１０頭以上の発生が見られる場合	即時		岡山県
水稲	セジロウンカ	移植後１週間　成虫飛来期	見取り虫数：調査圃場内よりランダムに選んだ２５株の成虫数を調査する。確認した成虫数をカウントし、株あたり平均成虫数を計算する。	成虫　２頭以上／株	即時		広島県
水稲	セジロウンカ	幼穂形成期～穂ばらみ期	見取り・払い落とし虫数：調査圃場内よりランダムに選んだ２５株の虫数を調査する。株を３回叩き、Ａ４版の黒色板上に払い落とした虫数をカウントし、株あたり平均虫数を計算する。	１０頭以上／株	即時		広島県
稲	セジロウンカ	穂ばらみ中期まで	払い落とし、見取り調査	５０頭／株以上	即時又は次世代幼虫時		山口県
稲	セジロウンカ	飛来時	払い落とし、見取り調査	成虫数１０頭／株以上	即時	箱粒剤を施用していない場合	山口県
水稲	セジロウンカ（幼虫）	－	見取り調査	３００頭／１０株	即時		香川県
水稲	セジロウンカ	普通期栽培で７月上旬	１株おきの１０株払い落とし調査	飛来成虫密度　１０頭／株	７月上旬		愛媛県
水稲	セジロウンカ	飛来期	払い落とし調査、１ほ場当たり５株×５ヶ所（２５株）	飛来成虫数６頭／株	主要飛来期から約２週間目		福岡県
水稲	セジロウンカ	本田初期	見取り調査、予察圃場５０株、巡回調査２０株／圃場	飛来虫の株あたり寄生虫数　５～１０頭／株	即時		長崎県
水稲	セジロウンカ	本田初期	見取り調査（払い落とし、２５株以上調査）	成幼虫数５頭／株	即時		大分県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
稲	トビイロウンカ	８月下旬～９月	見取り調査	成幼虫数３～５頭／株	即時		埼玉県
水稲	トビイロウンカ	７月下旬頃	見取り調査。任意の２５株について株ごとに成幼虫を調査し、寄生数を求める	１株あたり５～１０頭以上の寄生	緊急に一斉防除		千葉県
水稲	トビイロウンカ	８月中旬・９月中旬	のぞき込み調査	短翅型成虫２～３頭／株	即時		神奈川県
水稲	トビイロウンカ	８月上旬	見取り調査、１圃場の任意の場所２～３ヶ所で、各２５株の虫数を調査	短翅型成虫０．２５頭／株	即時		富山県
水稲	トビイロウンカ	８月下旬	見取り調査、１圃場の任意の場所２～３ヶ所で、各２５株の虫数を調査	（１）中生：成虫・幼虫　１０頭／株　（２）晩生：成虫・幼虫　５頭／株	即時		富山県
水稲	トビイロウンカ	７月中・下旬（侵入世代）	見取り調査	株当たり０．２頭	即時		石川県
水稲	トビイロウンカ	８月下旬（第２世代）	見取り調査	株当たり１０頭	即時		石川県
水稲	トビイロウンカ	８月初め	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で３ヶ所以上	０．１頭／株（短翅成虫数）	即時		福井県
水稲	トビイロウンカ	８月中旬	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で３ヶ所以上	１頭／株（成幼虫数）	即時		福井県
水稲	トビイロウンカ	９月中旬	払い落とし調査または見取り調査、水田内部で３ヶ所以上	４０頭／株（幼虫数）	即時		福井県
水稲	トビイロウンカ	早植栽培８月上旬から、普通植栽培８月下旬から	任意の２５株について払い落とし調査（３ヶ所程度）	２～３頭／株	要防除水準以上の発生を確認したら直ちに防除		岐阜県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

水稲	トビイロウンカ	８月中旬	ほ場内の任意の４地点において、畦から１０列目の株を各５株（計２０株）調査する	払い落とし：１頭以上／株	即時	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲	トビイロウンカ	７月下旬～８月上旬	見取り調査、任意の１００株を調査	成幼虫数５頭／株以上もしくは短翅虫数２頭／１０株以上	即時		京都府
水稲	トビイロウンカ	８月中旬～９月上旬	見取り調査	成幼虫数５頭／株以上	即時		京都府
水稲	トビイロウンカ	８月上旬	払い落とし調査、１ほ場あたり２５株	１頭／株以上	即時	・大陸からの飛来害虫である。飛来情報に注意する。 ・防除適期は成虫飛来直後～第１世代幼虫発生盛期（７月中旬～８月上旬）と第２世代幼虫発生盛期（８月下旬～９月上旬）である。	大阪府
水稲	トビイロウンカ	随時	払い落としまたは株元かき分け	成・幼虫　５頭／株以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	トビイロウンカ	収穫まで２か月以上（普通期栽培では７月下旬～８月上旬）	払い落としまたは株元かき分け	成・幼虫　２０頭／１００株以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	トビイロウンカ	収穫まで１．５か月以上（普通期栽培では８月上中旬）	払い落としまたは株元かき分け	短翅型雌成虫　３０頭／１００株以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	トビイロウンカ	収穫まで１か月以上（普通期栽培では８月下旬～９月上旬）	払い落としまたは株元かき分け	成・幼虫　２頭／株以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	トビイロウンカ	９月上旬	払い落とし、１圃場あたり２５株	３頭／株	随時		奈良県
水稲	トビイロウンカ	８月中旬	１圃場あたり、２５株×２ヶ所の計５０株で調査	１頭／株以上	即時		鳥取県
水稲	トビイロウンカ	８月下旬～９月中旬	１圃場あたり、２５株×２ヶ所の計５０株で調査	１０頭／株以上	即時		鳥取県
水稲	トビイロウンカ	８月上旬～中旬（第１世代老齢幼虫から成虫期）	払い落とし、１圃場あたり２５株調査	成幼虫１頭／株	第２世代若齢幼虫期の防除		島根県
稲	トビイロウンカ	収穫１ヶ月以上前	１圃場あたり任意の５０株×２ヶ所について、株あたり発生個体数を見取り調査	１０頭以上寄生している株が見られる場合	即時		岡山県
水稲	トビイロウンカ	飛来後　第２世代幼虫期	見取り・払い落とし虫数：調査ほ場内よりランダムに選んだ２５株の虫数を調査する。株を３回叩き、Ａ４版の黒色板上に払い落とした虫数をカウントし、株あたり平均虫数を計算する。	５頭以上／株	即時		広島県
稲	トビイロウンカ	７月下旬～８月上旬	払い落とし、見取り調査	２０頭／１００株以上	即時又は次世代幼虫時		山口県
稲	トビイロウンカ	８月中旬～９月上旬	払い落とし、見取り調査	５頭／株以上	即時		山口県
稲	トビイロウンカ	飛来時（６月下旬～７月中旬）	払い落とし、見取り調査	１０頭／１００株以上	即時又は次世代幼虫時	箱粒剤を施用していない場合	山口県
水稲	トビイロウンカ（成・幼虫）	出穂２０日前～穂ばらみ期（８月中下旬）	見取り調査	２～５頭／株	即時	「普通期栽培」	香川県
水稲	トビイロウンカ（成・幼虫）	穂揃期～糊熟期（９月上中旬）	見取り調査	１０頭／株	即時	「普通期栽培」	香川県
水稲	トビイロウンカ（成・幼虫）	穂揃期～糊熟期	見取り調査	１０頭／株	即時	「短期栽培」	香川県
水稲	トビイロウンカ	普通期栽培７月下旬～８月上旬	１株おきの１０株払い落とし調査（２か所/圃場）	成幼虫数　０．１頭／株	即時		愛媛県
水稲	トビイロウンカ	普通期栽培８月中旬～下旬	１株おきの１０株払い落とし調査（２か所/圃場）	成幼虫数　３～５頭／株	即時		愛媛県
水稲	トビイロウンカ	９月末	払い落とし調査、１ほ場当り５株×５ヶ所（２５株）	中老齢幼虫合計１０００頭／１００株	即時		福岡県
水稲	トビイロウンカ	飛来後第１世代	払い落とし調査、１ほ場当たり５株×５ヶ所（２５株）	中老齢幼虫合計２０頭／１００株	即時		福岡県
水稲	トビイロウンカ	飛来後第２世代	払い落とし調査、１ほ場当たり５株×５ヶ所（２５株）	中老齢幼虫合計１００頭／１００株	即時		福岡県
普通期水稲	トビイロウンカ	７月下旬～８月上旬	払い落とし調査	１０株あたり成虫及び幼虫数が２頭以上	幼虫ふ化揃い期等を考慮して防除		佐賀県
普通期水稲	トビイロウンカ	９月上～中旬	払い落とし調査	１株あたり老齢幼虫及び成虫が５頭以上	幼虫ふ化揃い期等を考慮して防除		佐賀県
水稲	トビイロウンカ	出穂以降	見取り調査、予察圃場５０株、巡回調査２０株／圃場	雌成虫寄生密度　１頭／株	幼虫ふ化揃い期		長崎県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

水稲	トビイロウンカ	８月上旬	見取り調査、予察圃場５０株、巡回調査２０株／圃場	短翅型雌成虫寄生密度　２０頭／１００株	幼虫ふ化揃い期		長崎県
水稲	トビイロウンカ	７月中旬～８月上旬	払い落とし調査	２０頭／１００株	即時		熊本県
水稲	トビイロウンカ	８月中旬～８月下旬	払い落とし調査	１００頭／１００株	即時		熊本県
水稲	トビイロウンカ	本田初期	払い落とし調査	１０頭／１００株	即時		熊本県
水稲	トビイロウンカ	収穫３０日前	払い落とし調査	３００頭／１００株	即時		熊本県
水稲	トビイロウンカ	７月上旬～８月上旬	見取り調査（払い落とし、２５株以上調査）	成幼虫数０．２頭／株	即時		大分県
水稲	トビイロウンカ	８月中旬～下旬	見取り調査（払い落とし、２５株以上調査）	成幼虫数１頭／株	即時		大分県
水稲	トビイロウンカ	８月上旬～９月中旬	虫数、払い落とし（２５株）	短翅雌成虫０．２頭／株	即時		宮崎県
普通期水稲	トビイロウンカ	７月下～８月上（本田中期）	払い落とし調査	短翅雌成虫２０頭／１００株以上	８月下旬		鹿児島県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	ヒメトビウンカ（吸汁害）	出穂期以降	すくい取り（２０回振り）	１８００頭以上（成虫）、９００頭以上（幼虫）	即時		北海道
水稲	縞葉枯病	前年の１１月	越冬世代幼虫の保毒虫率を調査	保毒虫率が１０％を超える			栃木県
水稲	縞葉枯病	前年の黄熟期	ほ場当たり任意の３００株を見取り調査	発病株率が１０％を超える			栃木県
稲	ヒメトビウンカ（縞葉枯病）	６月中旬（第１世代成虫の密度最高時）	１００株あたりの媒介虫数	１．９～０．６４頭	幼虫防除：１回		静岡県
稲	ヒメトビウンカ（縞葉枯病）	６月中旬（第１世代成虫の密度最高時）	１００株あたりの媒介虫数	８．７４～２．０頭	成虫防除１回・幼虫防除：１回		静岡県
稲	ヒメトビウンカ（縞葉枯病）	６月中旬（第１世代成虫の密度最高時）	１００株あたりの媒介虫数	１０．０～８．７５頭	成虫防除１～２回・幼虫防除：１回		静岡県
稲	ヒメトビウンカ（縞葉枯病）	６月中旬（第１世代成虫の密度最高時）	１００株あたりの媒介虫数	１５．８～１０．１頭	成虫防除２～３回・幼虫防除：１回		静岡県
水稲	縞葉枯病	６月下旬	ほ場内の任意の２地点において、畔から１０列目の株を各５０株（計１００株）調査する	発病株率１％以上	即時（ヒメトビウンカの防除）	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲	ヒメトビウンカ（縞葉枯病）	５月～８月（６月～９月）	払い落とし調査、１ほ場あたり２５株	３頭／株以上、保毒虫率５％	即時	・越冬場所となるほ場周辺の雑草を取り除く。（栽培終了後） ・縞葉枯病が多発するほ場では必ず箱施用剤を施す。	大阪府
水稲	ヒメトビウンカ（稲縞葉枯病）	６月上旬～中旬	払い落とし	保毒虫率５％の場合、第１世代成虫　３頭／１０株	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	ヒメトビウンカ（稲縞葉枯病）	６月下旬～７月中旬	払い落とし	保毒虫率５％の場合、第１世代成虫＋第２世代幼虫　３０頭／１０株以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
稲	ヒメトビウンカ	４月～５月	保毒虫率の検定	保毒虫率５％以上	移植時～７月下旬	箱粒剤を施用していない場合	山口県
水稲	縞葉枯病	５月下旬～６月下旬	ヒメトビウンカ第１世代成虫：１株おきの１０株払い落とし調査（保毒虫率は１００頭を虫体圧搾処理と簡易ＥＬＩＳＡ法による検定法で検定）	（１）保毒虫率２％で　０．２５頭／株　（２）保毒虫率２０％で　０．０１～０．０２頭／株	本田初期	ヒメトビウンカの６月上旬の発生に注意。	愛媛県
水稲	縞葉枯病	７月上旬～下旬	ヒメトビウンカ第２世代成虫：１株おきの１０株払い落とし調査（保毒虫率は１００頭を虫体圧搾処理と簡易ＥＬＩＳＡ法による検定法で検定）	保毒虫率２０％で　３頭／株	生育期		愛媛県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	アカヒゲホソミドリカスミカメ	乳熟期（第３回目以降の防除時期）	すくい取り（２０回振り）	品種「ほしのゆめ」：１頭以上・品種「きらら３９７」、「ゆきひかり」：２頭以上・品種「きたくりん」：３頭以上	即時		北海道
水稲	アカヒゲホソミドリカスミカメ	乳熟期（第３回目以降の防除時期：出穂１４日後）から黄熟期（８月下旬～９月上旬）まで、追加防除の判断を７日ごと（出穂１４，２１，２８日後）に実施	フェロモントラップ（アース・バイオケミカル社製）、同一防除を実施する区域内（１～１０ｈａ）に３基、区域外周部から３０m以上離して水田内の畦畔沿いに設置。数日毎に捕獲虫数を調査する。	前回判断以降７日間のトラップ１基あたり平均捕獲頭数：「ほしのゆめ」１．２頭、「きらら３９７」２．２頭	即時		北海道

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

水稲	カメムシ類	出穂期～乳熟期	水田内畦畔際２０回すくい取り	２～４頭	即時		福島県
水稲	斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）	穂揃期以降	１０回振りすくい取り調査	幼虫８頭以上（２等米：斑点米率０．３%）	即時		茨城県
水稲	斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）	穂ぞろい期	２０回振りすくい取り調査	成虫がいる	即時		栃木県
水稲	斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）	出穂１５日後	２０回振りすくい取り調査	幼虫が２頭以上	即時		栃木県
水稲	斑点米カメムシ類	穂揃い期	２０回振りすくい取り調査	クモヘリカメムシ成虫：早生７頭以上、晩生２頭以上、ホソハリカメムシ成虫：早生１１頭以上	随時		千葉県
水稲	斑点米カメムシ類	出穂１５日後	２０回振りすくい取り調査	クモヘリカメムシ幼虫：早生１８頭以上、晩生６頭以上、ホソハリカメムシ幼虫：早生１４頭以上	随時		千葉県
水稲（コシヒカリ）（圃場単位）	アカヒゲホソミドリカスミカメ	出穂期～出穂期５日後	性フェロモントラップを水田内に設置、出穂期から５日間の誘殺数	誘殺数が２０頭以下：防除不要	出穂期７日後		新潟県
水稲	斑点米カメムシ類（アカヒメヘリカメムシ・クモヘリカメムシ）	穂揃い期	すくい取り（２０回振）（夕方行う）	アカヒメヘリカメムシ２．９頭、クモヘリカメムシ１０～２１頭	出穂始期と幼虫発生期（乳熟期～糊熟期）に２～３回		岐阜県
水稲	斑点米カメムシ類	穂ぞろい期	本田すくい取り調査、捕虫網２０回振り	４頭以上	即時	・出穂期予想日３週間前頃と出穂期頃の２回、または出穂２週間前にほ場周辺の畦畔や休耕田の雑草を刈り取る。 ・斑点米混入による品質低下を防止するために額縁刈りを行い、水田外周部のもみを別扱いすることが有効である。 ・畦畔のグランドカバープランツ（ＧＣＰ）植栽は斑点米カメムシ類の発生抑制効果がある。 ・本田（３ａ以上）の３割の額縁防除と畦畔雑草防除を組み合わせることで効果が高い。	大阪府
水稲	斑点米カメムシ類	乳熟期	すくい取り（４０回振）	３頭以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ以外）	出穂後	１圃場あたり、捕虫網５０回振りすくい取り調査	４頭以上／５０回すくい取り	即時		鳥取県
水稲	アカスジカスミカメ	穂ばらみ期～出穂１週間後	１圃場あたり、捕虫網２５往復５０回振りすくい取り調査	６頭以上／５０回すくい取り	即時		鳥取県
水稲	斑点米カメムシ類（カスミカメムシ類）	乳熟期	すくい取り：捕虫網（柄の長さ１ｍ、口径３６ｃｍ）を用いて調査ほ場内を２０回左右に振り、捕獲虫数をカメムシの種類別に調査する。	４頭以上／２０回振りすくい取り（１等から２等への格下げ）	カスミカメムシ類主体の地域：出穂期～その１０日後に１～２回		広島県
水稲	斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ等その他加害種）	乳熟期	すくい取り：捕虫網（柄の長さ１ｍ、口径３６ｃｍ）を用いて調査ほ場内を２０回左右に振り、捕獲虫数をカメムシの種類別に調査する。	２頭以上／２０回振りすくい取り　（１等から２等への格下げ）	ホソハリカメムシ等その他加害種主体の地域：出穂７日後～１４日後に１～２回		広島県
稲	斑点米カメムシ（クモヘリカメムシ）	出穂１０日前～出穂１０日後	フェロモントラップ（スリットトラップ）調査	出穂前１０日間で３頭以上	穂揃期		山口県
稲	斑点米カメムシ（クモヘリカメムシ）	出穂１０日前～出穂１０日後	フェロモントラップ（スリットトラップ）調査	出穂後１０日間で３頭以上	穂揃期１週間後		山口県
稲	斑点米カメムシ（クモヘリカメムシ等大型種）	穂揃い期	すくい取り調査（４０回）	１頭以上／２０回すくい取り	即時		山口県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

稲	斑点米カメムシ（アカスジカスミカメ等小型種）	穂揃い期	すくい取り調査（４０回）	３頭以上／２０回すくい取り	即時		山口県
水稲	斑点米カメムシ類	穂揃期～乳熟期	捕虫網による２０回すくい取り調査	すくい取り個体数　大型種１頭小型種３頭	乳熟期～糊熟期		愛媛県
水稲	カメムシ類	穂揃い期～乳熟期	すくい取り調査	山間山麓の早期、早植水稲で２０回振りすくい取り調査で５頭以上	穂揃い期と乳熟期に２回防除を実施	多発生の場合	佐賀県
水稲	斑点米を発生させるカメムシ類	穂揃い期～乳熟期	すくい取り調査	２０回振りすくい取り調査で５頭以上	乳熟期に防除を実施	並発生の場合	佐賀県
水稲	斑点米カメムシ類	乳熟期	虫数、すくい取り	１頭／２０回	即時		宮崎県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	イネドロオイムシ	産卵最盛期	見取り調査	２．０卵塊以上／株	即時		北海道
水稲（直播）	イネドロオイムシ	７月初旬～中旬（１週間間隔）	畦畔から２ｍ程度の畦５列各１ｍ範囲内に認められるコロニー（卵塊もしくは１卵塊由来の幼虫コロニー）数を１ほ場あたり３ヶ所以上観察	１個／１ｍ	即時	中発生地域（年によって多発）対象	北海道
水稲	イネドロオイムシ	産卵盛期	畦畔際から５～６歩入り、そこから中央に向かって２５株見取り調査する	卵塊数１３個／２５株	即時		岩手県
水稲	イネドロオイムシ	産卵盛期	畦畔際から５～６歩入り、そこから中央に向かって２５株見取り調査する	卵塊数３個／２５株	翌年		岩手県
水稲	イネドロオイムシ	成虫発生盛期	畦畔際から圃場を観察する（１００株を見取り調査）	（減収率０％を被害許容水準とした場合）成虫密度：１００株当たり２５頭程度	粒剤：越冬後成虫侵入最盛期・粉剤：幼虫発生始期		宮城県
水稲	イネドロオイムシ	卵塊発生盛期	畦畔際から圃場を観察する（１００株を見取り調査）	（減収率０％を被害許容水準とした場合）卵塊密度：１００株当たり８０個程度	粒剤：越冬後成虫侵入最盛期・粉剤：幼虫発生始期		宮城県
水稲	イネドロオイムシ	産卵盛期（６月上～中旬）	５列×１０株＝５０株を調査し、卵塊数を算出	０．５卵塊／株	６月中旬	茎葉散布剤	秋田県
水稲	イネドロオイムシ	産卵盛期（平年で６月第２半旬）	見取り調査	卵塊数１～２個／株以上	即時		山形県
水稲	イネドロオイムシ	６月中旬（幼虫発生盛期）	見取り調査、任意	３～４齢幼虫１０頭以上／株	即時		福島県
水稲	イネドロオイムシ	成虫侵入期(５月下旬に侵入開始)	ほ場当たり任意の１００株を見取り調査	成虫が１０頭を超える	即時		栃木県
水稲	イネドロオイムシ	産卵盛期(６月上旬)	ほ場当たり任意の３０株を見取り調査	卵塊数が２５個を超える	即時		栃木県
水稲	イネドロオイムシ	５月中旬頃（越冬成虫の本田侵入最盛期）	見取り調査。任意の２５株について株ごと寄生成虫数を調査し、２５株あたりの寄生成虫数を求める	成虫数が１０株に２頭以上	随時		千葉県
水稲	イネドロオイムシ	５月下旬頃（産卵最盛期）	見取り調査。任意の２５株について株ごと卵塊数を調査し、２５株あたりの卵塊数を求める	卵塊数が１株に１卵塊以上	随時		千葉県
水稲	イネドロオイムシ（圃場単位）	卵塊密度の最盛期	３０株の卵塊数	３０株あたり２５卵塊以下：防除不要．３０株あたり９０卵塊以上：防除必要	茎葉散布剤：幼虫加害初期．水面施用剤：成虫密度盛期		新潟県
水稲	イネドロオイムシ（圃場単位）	越冬世代成虫本田密度の最盛期	１００株の成虫寄生数	１００株あたり１０頭以下：防除不要．１００株あたり３０頭以上：防除必要	茎葉散布剤：幼虫加害初期．水面施用剤：成虫密度盛期		新潟県
水稲	イネドロオイムシ	５月下旬（越冬後成虫本田侵入最盛期）	見取り調査、１圃場の任意の２５株について葉・葉鞘の虫数を調査	０．５頭／１０株	６月上～中旬		富山県
水稲	イネドロオイムシ	６月上旬（産卵最盛期）	見取り調査、１圃場の任意の２５株について葉・葉鞘の卵塊を調査	５卵塊／１０株	６月上～中旬		富山県
水稲	イネドロオイムシ	６月初め	見取り調査	株当たり１卵塊	ふ化盛期（６月２半旬頃）	箱粒剤無施用の場合	石川県
水稲	イネドロオイムシ	６月中旬	見取り調査	被害葉率２０％	即時		石川県
水稲	イネドロオイムシ	７月	見取り調査、１圃場当たり任意の２５株について卵塊の寄生数調査	１２．５～２０卵塊／２５株	即時		山梨県
水稲	イネドロオイムシ	６月中旬～下旬	ほ場内の任意の２地点において、各５０株（計１００株）調査する	被害葉率２０％以上	即時	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲	イネドロオイムシ	６月中旬～下旬	ほ場内の任意の２地点において、各５０株（計１００株）調査する	被害株率５０％以上	即時	（防除要否の目安）	滋賀県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

水稲	イネドロオイムシ	越冬成虫発生盛期（５月末～６月上旬）	払い落とし調査、１ほ場あたり２５株	成虫５頭／２５株以上	即時	・イネミズゾウムシの食痕より太い。 ・ 成虫も同様にイネの葉を食害する。正式名はイネクビボソハムシ。 ・ 山間の涼しい地域の水田で発生する。イネミズゾウムシと異なり、幼虫は地中ではなく葉上にいるので根は食害しない。成虫で越冬する。	大阪府
水稲	イネドロオイムシ	５月中～下旬	見取り調査	越冬成虫が１０株あたり１頭、卵塊数が株あたり１個程度または白変葉が目立つとき	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	イネドロオイムシ	６月中旬（加害最盛期）	見取り調査	被害葉率２０％以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	イネドロオイムシ（イネクビホソハムシ）	幼虫孵化最盛期（６月中下旬頃）※発生時期は天候に左右され，毎年異なる。	見取り虫数：調査ほ場内よりランダムに選んだ２５株の虫数を調査する。株当たり発生幼虫数を調査する。	幼虫孵化最盛期に株当たり発生幼虫数１２頭以上	即時		広島県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	イネゾウムシ	－	見取り調査	被害株率９０％以上	即時		北海道
水稲	イネミズゾウムシ	６月１０日～１５日（越冬成虫の発生最盛期、４月１日からの積算温度〈１３．８℃〉以上で７０日度～１００日度）	見取り調査（１０株５ヶ所）	成虫食害株率７０％以上	即時		北海道
水稲	イネミズゾウムシ	６月１０日～１５日（越冬成虫の発生最盛期、４月１日からの積算温度〈１３．８℃〉以上で７０日度～１００日度）	見取り調査（１２０株）	０．５頭／株以上	即時		北海道
水稲	イネミズゾウムシ	５月第６半旬	圃場あたり２ヶ所について５０株以上を調査する	成虫による食害株率６２％又は被害度１８	５月第６半旬		青森県
水稲	イネミズゾウムシ	６月第１～２半旬	圃場あたり２ヶ所について５０株以上を調査する	成虫による食害株率８２％又は被害度２５	６月第１～２半旬		青森県
水稲	イネミズゾウムシ	成虫本田侵入盛期	畦畔際から５～６歩入り、そこから中央に向かって２５株見取り調査する	８頭／２５株	即時		岩手県
水稲	イネミズゾウムシ	成虫本田侵入盛期	畦畔際から５～６歩入り、そこから中央に向かって２５株見取り調査。	３頭／２５株	翌年		岩手県
水稲	イネミズゾウムシ	成虫侵入盛期	畦畔際から２ｍ程度のところを観察する。	（減収率５％を被害許容水準とした場合）株あたり成虫密度：５月第２半旬移植５．７頭／株、５月第４半旬移植１．４頭／株、５月第６半旬移植０．７頭／株	即時	他の減収率（０％，１％，３％）を被害許容水準として要防除水準を設定することもできる。	宮城県
水稲	イネミズゾウムシ	成虫侵入盛期の５日後	畦畔際から２ｍ程度のところを観察する。	（減収率５％を被害許容水準とした場合）被害葉率：５月第２半旬移植５６％、５月第４半旬移植３５％、５月第６半旬移植１８％	即時	他の減収率（０％，１％，３％）を被害許容水準として要防除水準を設定することもできる。	宮城県
水稲	イネミズゾウムシ	６月上旬	５列×１０株＝５０株を調査し、成虫数、食害株率を算出	越冬後成虫０．３頭／株（食害株率９０％以上）	６月上旬	水面施用剤	秋田県
水稲	イネミズゾウムシ	前年６月上旬	５列×１０株＝５０株を調査し、成虫数、食害株率を算出	越冬後成虫０．３頭／株（食害株率９０％以上）	播種前～移植当日、移植時	箱施用剤、移植時施用剤	秋田県
水稲	イネミズゾウムシ	５月下旬～６月上旬	水田中央部までの５０株を見取り調査	２５頭／５０株（稚苗移植）以上・３５頭／５０株（中苗移植）以上	即時		山形県
水稲	イネミズゾウムシ	移植後	見取り調査、任意	０．２２頭／株（移植直後から成虫が侵入する場合）	即時		福島県
水稲	イネミズゾウムシ	移植後～１０日後	見取り調査、任意	０．３７頭／株（移植１０日から成虫が多くなるほ場の場合）	即時		福島県
水稲	イネミズゾウムシ	移植後	見取り調査	成虫０．８頭／株	即時		茨城県
水稲	イネミズゾウムシ	移植２週間後(５月中～下旬)	畦畔沿いの任意の５０株を見取り調査	成虫が２５頭以上	即時		栃木県
稲	イネミズゾウムシ	全作期移植１０日後	見取り調査	成虫数０．３頭／株	即時		埼玉県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

稲	イネミズゾウムシ	５月中旬の移植	見取り調査	成虫数０．５頭／株	即時		埼玉県
稲	イネミズゾウムシ	５月上旬までの移植	見取り調査	成虫数１頭／株	即時		埼玉県
水稲	イネゾウムシ	移植１０日後頃	見取り調査。任意の２５株について株ごと寄生成虫数を調査し、２５株あたりの寄生成虫数を求める	１株あたり０．２～０．５頭以上	随時		千葉県
水稲	イネミズゾウムシ	移植１０日後頃	見取り調査。任意の２５株について株ごと寄生成虫数を調査し、２５株あたりの寄生成虫数を求める	飛来成虫数が２～３株に１頭以上	随時		千葉県
水稲	イネミズゾウムシ（圃場単位）	移植後２週間頃（移植後低温の場合は調査を遅らせる）	畦畔から１ｍの位置にあるイネ１００株の食害指数（食害度）	食害指数の平均値２以下（被害葉率１１～２０％以下）：防除不要．食害指数の平均値３以上（被害葉率２１～３０％以上）：防除必要	成虫密度の最盛期		新潟県
水稲	イネミズゾウムシ（圃場単位）	移植後２週間頃（移植後低温の場合は調査を遅らせる）	５０株の成虫数	防除必要：５０株あたり成虫１５頭以上．追加防除のめやす：防除実施圃場で侵入盛期後も５０株当たり５０頭以上	成虫密度の最盛期		新潟県
水稲	イネミズゾウムシ（地域単位）	前年６月第３半旬	１地域（数十ｈａ）３０～４０ほ場程度、畦畔から３・４条目の５０株の被害株率	平均被害株率３０％以下：翌年の防除不要	各薬剤の処理適期		新潟県
水稲	イネミズゾウムシ	本田発生盛期	見取り調査、１圃場の任意の２５株について葉・葉鞘の虫数を調査	０．３頭／株	本田発生盛期		富山県
水稲	イネゾウムシ	移植１０日後	見取り調査	畦畔沿いの成虫数株当たり０．３頭	即時	箱粒剤無施用の場合	石川県
水稲	イネミズゾウムシ	５月中旬	見取り調査	畦畔沿いの成虫数株当たり０．３頭	即時	箱粒剤無施用の場合	石川県
水稲	イネミズゾウムシ	前年５月２０～２５日（本田侵入期）	成虫見取り調査、水田畦畔から１ｍ内部に入った場所１００株	前年５０頭／１００株	育苗箱施薬の実施		福井県
水稲	イネミズゾウムシ	５月２０～２５日（本田侵入期）	成虫見取り調査、水田畦畔から１ｍ内部に入った場所１００株	（１）８０頭／１００株（育苗箱粒剤施用済）（２）３０頭／１００株（育苗箱粒剤未施用）（３）２０頭／１００株（箱粒剤未施用〈漏水田〉）	即時		福井県
水稲	イネミズゾウムシ	５月～６月	見取り調査、１圃場あたり任意の５０株について株ごとの寄生虫調査	１頭／２株	即時		山梨県
水稲	イネミズゾウムシ	５月下旬～６月上旬	１圃場当たり１００株程度の見取り調査を行う	株当たりの越冬成虫数が１頭以上	即時		長野県
水稲	イネミズゾウムシ	５月中旬～下旬（越冬成虫飛来盛期）	見取り調査、任意の２５株について寄生成虫数を調査	成虫０．３頭／株、被害葉率２０％	要防除水準以上の発生を確認したら直ちに防除		岐阜県
水稲	イネミズゾウムシ	移植後	株あたり成虫数	０．５頭／株（５％減収）	即時（水面施薬）		愛知県
稲	イネミズゾウムシ	５月	見取り調査、１圃場あたり２５株調査	０．５頭／株	即時		三重県
水稲	イネミズゾウムシ	５月下旬	ほ場内の任意の２地点において、畦から１０列目の株を各５０株（計１００株）調査する	見取り：０．５頭以上／株	即時	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲	イネミズゾウムシ	５月下旬	ほ場内の任意の２地点において、畦から１０列目の株を各５０株（計１００株）調査する	被害株率９０％以上	即時	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲	イネミズゾウムシ	５月下旬～６月上旬（成虫飛来期）	見取り調査	育苗箱施用剤を使用しなかった場合、成虫が株当たり０．３頭を超えるとき。育苗箱施用を行った場合、成虫が１頭／株以上で食害が激しいとき。	即時		京都府

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

水稲	イネミズゾウムシ	本田の成虫発生盛期（５月～６月）	払い落とし調査、１ほ場あたり２５株	成虫５頭／２５株以上	即時	・田植え後の気温が低い場合には調査時期を遅くする。 ・本田の全面施用量の１／３を額縁防除することも効果が高い。 ・毎年の発生が多いほ場では稚苗よりも大きな中苗、成苗を移植する。 ・ほ場周辺に耕作放棄地がある場合には、越冬成虫の発生に注意する。	大阪府
水稲	イネミズゾウムシ	５月下旬～６月上旬	見取り調査（畦畔から１０～１５条目）	越冬成虫の本田密度が株あたり０．３頭または成虫の食害株率９０％以上	即時	箱施用をしていない場合（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	イネミズゾウムシ	５月、６月	見取り調査、１圃場あたり２５株	０．５頭／株	即時		奈良県
水稲	イネミズゾウムシ	５月中旬～６月下旬	１圃場あたり、２５株×２ヶ所の計５０株で調査	０．５頭／株以上	即時		鳥取県
稲	イネミズゾウムシ	５月下旬	１圃場あたり任意の５０株×２ヶ所（畦畔から３条目）について、株あたり発生個体数を見取り調査	（１）育苗箱施薬を行っていない圃場で越冬後成虫の寄生数が株あたり０．３頭以上の場合 （２）育苗箱施薬圃場で田植え後の飛来数が多く、成虫の食害によって稲の初期生育が抑制されると考えられる場合	即時		岡山県
水稲	イネミズゾウムシ	越冬後成虫発生初期（移植直後）	見取り虫数：調査圃場内よりランダムに選んだ２５株の成虫数を調査する。確認した成虫数をカウントし、株あたり平均成虫数を計算する。	１頭以上／株	即時（成虫防除）		広島県
水稲	イネミズゾウムシ	越冬後成虫飛込盛期	見取り虫数：調査圃場内よりランダムに選んだ２５株の成虫数を調査する。確認した成虫数をカウントし、株あたり平均成虫数を計算する。	（１）育苗箱施用田：１頭以上／株　（２）その他水田：０．３頭以上／株	即時（成虫防除）		広島県
稲	イネミズゾウムシ	本田初期	株あたり成虫数　畦畔から中央部へ連続５０株２か所の計１００株を調査	０．５頭／株以上	田植え後１０～１５日目	箱粒剤を施用していない場合	山口県
水稲	イネミズゾウムシ	本田初期	見取り調査	０．３～０．５頭／株（育苗箱施用を行っている場合は０．５頭）	即時	「早短期栽培」	香川県
水稲	イネミズゾウムシ	５月５～６半旬	払い落とし調査、１ほ場当たり５株×５ヶ所（２５株）	成虫密度０．５頭／株	即時		福岡県
水稲	イネミズゾウムシ	－	見取り調査	１０株あたり成虫数が５頭以上	成虫侵入ピーク時		佐賀県
水稲	イネミズゾウムシ	本田初期	見取り調査、予察圃場５０株、巡回調査２５株／圃場	株あたり寄生越冬成虫密度０．５頭／株	移植１～２週間後		長崎県
水稲	イネミズゾウムシ	本田初期	見取り調査（払い落とし、２５株以上調査）	成幼虫数０．５頭／株	即時		大分県
水稲	イネミズゾウムシ	越冬成虫飛込み期	虫数、見取り（２５株）	０．５頭／株	即時		宮崎県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	イネミギワバエ（イネヒメハモグリバエ）	５月下旬	見取り調査、１圃場当たり１００株を調査し、株当たり卵数または産卵株数	１．５卵／株（産卵株率５０％）	被害初期		秋田県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	ニカメイガ	出穂期１０日前	５０株５ヶ所の平均被害株率を算出する	被害株率４％	出穂１０日前		青森県
水稲	ニカメイガ（第１世代）	６月中～下旬	２列×２５株＝５０株又は４列×２５株＝１００株を調査し、葉鞘変色茎率を算出	葉鞘変色茎率が１２％	即時	茎葉散布剤、水面施用剤	秋田県
水稲	ニカメイガ（第２世代）	７月下旬（第１世代被害末期）	周辺１ｈａ内の５筆を２列×１００～１５０株×３か所の約７００株調査、または各筆平面系統抽出法２５株調査し、心枯株率を算出	心枯株率３％	８月上～中旬	茎葉散布剤、水面施用剤	秋田県
水稲	ニカメイチュウ（第１世代）	心枯茎の出る前（田植後２５～４０日）	葉鞘変色茎数を見取り調査	葉鞘変色茎１本／株以下ならば防除不要	即時		山形県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

水稲	ニカメイチュウ（第１世代幼虫）	５月～６月	フェロモントラップにより誘殺数を調査	６月１０日（県北は５月末）までの総誘殺数が４００頭以上	越冬世代成虫の発蛾最盛日から７～１４日後		栃木県
水稲	ニカメイチュウ（第２世代幼虫）	６月下旬	ほ場当たり任意の２５株を見取り調査	葉鞘変色茎の株率が２０％以上	第１世代成虫の発蛾最盛日から５日後まで		栃木県
水稲	ニカメイガ	第１世代幼虫加害初期（６月下～７月初）	見取り調査、１圃場あたり２５株について総茎数と葉鞘変色茎数を計数	葉鞘変色茎率５％	即時		群馬県
稲	ニカメイチュウ（第１世代）	６月下旬～７月上旬	見取り調査	葉鞘変色茎率５％	即時		埼玉県
稲	ニカメイチュウ（第２世代）	５月１日～６月３０日（越冬世代成虫）	フェロモントラップ法	越冬世代成虫のフェロモントラップ総誘殺数４００～５００頭／トラップ	８月下旬		埼玉県
稲	ニカメイチュウ（第２世代）	６月下旬～７月上旬	見取り調査	第１世代の芯枯茎率１．０～１．５％、同株率１０％	８月下旬		埼玉県
水稲	ニカメイチュウ（第１世代）	６月中旬頃	見取り調査。任意の２５株について株ごと被害茎数を調査し被害株率を求める	葉鞘変色茎率が５％以上	随時		千葉県
水稲	ニカメイチュウ（地域単位）	前年１０月下旬～１１月	１地域４０圃場程度、１圃場４０株の被害茎発生株率	被害茎発生株率６０％以下：防除不要	第１世代：粉剤・液剤；発蛾最盛期の１５～２０日後．粒剤；発蛾最盛期の７～１０日後		新潟県
水稲	ニカメイチュウ（地域単位）	６月第２半旬まで	性フェロモントラップを１地域１０個程度設置、誘殺数	６月第２半旬までの誘殺数の平均値８００頭以下：防除不要	第１世代：粉剤・液剤；発蛾最盛期の１５～２０日後．粒剤；発蛾最盛期の７～１０日後		新潟県
水稲	ニカメイチュウ（地域単位）	６月２０日頃	１地域４０地点程度、１圃場２５株の葉鞘変色茎発生株率	葉鞘変色茎発生株率２０％以下：防除不要	第１世代：粉剤・液剤；発蛾最盛期の１５～２０日後．粒剤；発蛾最盛期の７～１０日後		新潟県
水稲	ニカメイチュウ（圃場単位）	６月２０日頃	１圃場２５株、葉鞘変色茎発生株率	葉鞘変色茎発生株率５０％以下：防除不要	第１世代：粉剤・液剤；発蛾最盛期の１５～２０日後．粒剤；発蛾最盛期の７～１０日後		新潟県
水稲	ニカメイチュウ（第１世代）	６月中～下旬（さや枯最盛時）	見取り調査、１圃場の任意の１００株について被害茎率を調査	さや枯被害茎率３％	第１世代発蛾最盛期より１５～２０日後		富山県
水稲	ニカメイチュウ（第１世代）	前年第２世代末	見取り調査、１圃場の任意の１００株について被害茎率を調査	被害茎率２％	育苗時、本田		富山県
水稲	ニカメイチュウ（第１世代）	前年第２回成虫発生期	予察灯調査、発生時期の総虫数を調査	５０頭	育苗時、本田		富山県
水稲	ニカメイチュウ（第１世代）	前年１０月（前年稲刈後）	刈り株調査、１圃場の任意の１００株について幼虫数を調査	刈株の越冬幼虫数　１０００頭／１０ａ	育苗時、本田		富山県
水稲	ニカメイチュウ（第１世代）	第１回成虫	予察灯調査、発生時期の総虫数を調査	１００頭	第１世代発蛾最盛期より１５～２０日後		富山県
水稲	ニカメイチュウ（第２世代）	第２回成虫発生期	予察灯調査、発生時期の総虫数を調査	５０頭	第２世代発蛾最盛期より５～７日後		富山県
水稲	ニカメイチュウ（第２世代）	７月中旬～下旬（第１世代末）	見取り調査、１圃場の任意の２５株について被害茎率を調査	第１世代心枯被害茎率１％	第２世代発蛾最盛期より５～７日後		富山県
水稲	ニカメイチュウ（１世代）	発蛾最盛日の約１週間後（平年では６月７～１０日）	見取り調査	被害株率１０％	発蛾最盛期の１５～２０日後（６月中旬頃）		石川県
水稲	ニカメイガ（第１世代）	５月～６月	フェロモントラップによる越冬世代誘殺数	越冬世代成虫総誘殺数が５００頭以上	即時		長野県
水稲	ニカメイガ	５月上旬～発ガ最盛日	ほ場の隅にフェロモントラップを設置し、累計誘殺数を調査する	累計誘殺数２００頭以上	６月中旬	ニカメイガに有効な育苗箱施薬剤を施用していない場合	滋賀県
水稲	ニカメイガ	６月中旬	ほ場内の任意の２地点において、畦から１０列目の株を各５０株（計１００株）調査する	被害株率１０％以上	即時および７月下旬～８月上中旬	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲	ニカメイチュウ	６月末（第１世代）	見取り調査	葉鞘変色茎率５％以上	－		京都府
水稲	ニカメイチュウ	６月下旬～１０月上旬	見取り調査、１ほ場あたり２５株	被害株率５％以上	発蛾最盛期からその７日後	・定植時の箱施用剤により第１次世代の発生密度を下げることができる。	大阪府

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

水稲	ニカメイチュウ（第１世代）	第一世代被害発生時期	見取り調査	葉鞘変色株率１０％以上	６月下旬（発蛾最盛期の１０～１５日後）	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲	ニカメイチュウ（第２世代）	第二世代被害発生時期	見取り調査	第一世代の被害が多かった場合	８月下旬（発蛾最盛日の７日後）	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲（キヌヒカリ普通期）	ニカメイガ	７月中旬（１化期）	被害茎率を見取り調査する	１化期６．２％	即時	被害許容水準を５％減収とした場合	和歌山県
水稲（キヌヒカリ普通期）	ニカメイガ	８月中旬（２化期）	被害茎率を見取り調査する	２化期３．４％	即時	被害許容水準を５％減収とした場合	和歌山県
水稲	ニカメイガ	６月中旬～下旬（第１世代幼虫ふ化最盛期）	１圃場あたり、２５株×２ヶ所の計５０株で調査	葉鞘変色茎率５％以上	即時		鳥取県
水稲	ニカメイガ	７月下旬～８月上旬（第１世代幼虫末期）	１圃場あたり、２５株×２ヶ所の計５０株で調査	被害株数１０～１２％以上または心枯茎率１．５％以上	８月中旬～下旬（第２世代幼虫の発生最盛期）に防除		鳥取県
稲	ニカメイガ	６～９月	粘着トラップを水田畦畔・高さ５０ｃｍに設置し、誘殺数を７日ごとに調査	ピーク日までの誘殺数（１）越冬世代：５６頭以上（２）第１世代：１４４頭以上	即時		岡山県
水稲	ニカメイチュウ（ニカメイガ）	第１世代発生期	見取り調査	被害茎率３～９％	即時		香川県
水稲	ニカメイチュウ（ニカメイガ）	第１世代発生末期	見取り調査	被害茎率１．０～３．５％、被害株率１０～１２％	即時		香川県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	コブノメイガ	７月中旬～下旬	２０回振りすくい取り調査、１圃場の任意の場所で調査	１頭	７月下旬～８月上旬		富山県
水稲	コブノメイガ	８月上旬～中旬	２０回振りすくい取り調査、１圃場の任意の場所で調査	２頭	中・晩生対象　８月中旬		富山県
水稲	コブノメイガ	出穂期	見取り調査、１圃場の任意の２５株の上位２葉について被害葉を調査	上位２葉の食害葉率１０％	穂揃い期		富山県
水稲	コブノメイガ	７月中・下旬（侵入世代）	すくい取り調査	５０回振り２頭	ふ化期（８月上旬頃）		石川県
水稲（中生、晩生品種）	コブノメイガ	８月中旬	ほ場内の任意の２地点において、畦から１０列目の株を各５０株（計１００株）調査する	被害葉率（上位２葉）２０％以上	８月末～９月上旬	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲（中生、晩生品種）	コブノメイガ	８月上旬	ほ場内の任意の２地点において、畦から１０列目の株を各５０株（計１００株）調査する	被害株率２０％以上	８月末～９月上旬	（防除要否の目安）	滋賀県
水稲	コブノメイガ	７月下旬～１０月上旬	見取り調査、１ほ場あたり２５株	上位２葉被害葉率５％以上	８月下旬～９月中旬（８月に巻葉が多い場合）	・国内では越冬できない。 ・飛来情報に注意する。	大阪府
水稲	コブノメイガ	８月上旬	見取り調査	上位２葉の食害葉率２０％以上	８月中・下旬	（要防除密度の目安）	兵庫県
水稲（キヌヒカリ普通期）	コブノメイガ	７月下旬まで	上位２葉の被害葉率を見取り調査する	0.18	即時（第１世代幼虫期）	被害許容水準を５％減収とした場合	和歌山県
水稲	コブノメイガ	８月上旬～中旬	被害株率：調査圃場内よりランダムに選んだ２５株の被害葉の有無を調査する。被害葉は新しい食害痕とする。	県南部地帯：被害株率２０％以上	被害初期（発蛾最盛期～７日後）		広島県
稲	コブノメイガ	多飛来時（６月下旬～７月中旬）	見取り調査	次世代幼虫による被害葉やつづり葉の葉率（上位２葉）が２０％以上	即時		山口県
稲	コブノメイガ	成虫最盛期	払い出し	５頭／平方メートル以上	粒剤は即時、粉剤は１週間後		山口県
水稲	コブノメイガ（幼虫）	８月上旬	見取り調査	被害株率２０％程度	即時	「普通期栽培」	香川県
水稲	コブノメイガ	第１世代幼虫期	見取り調査	被害株率２０％以上または被害葉率０．２％以上	第２世代幼虫期		熊本県
水稲	コブノメイガ	７月中旬～８月上旬	見取り調査（払い落とし、２５株以上調査）	被害葉が株率で１０％	発蛾最盛期の１週間後（ふ化期）		大分県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	イネツトムシ	８月上旬	見取り調査	ツトが株あたり０．５個	即時		群馬県
稲	イネツトムシ	幼虫若齢期（ふ化最盛期４～７日後）	見取り調査	幼虫数５頭／１０株	即時	６／１以降の気温が平年並みの場合、孵化最盛期は７／２７	埼玉県
水稲（直播）	イチモンジセセリ（イネツトムシ）	７月下旬（若齢幼虫期）	見取り調査、１平方メートルの株を圃場あたり５ヶ所程度	若齢幼虫数：４．４頭／平方メートル	即時		福井県
水稲	イネツトムシ	７月下旬～８月上旬	１圃場当たり１００株程度の見取り調査を行う	株当たりの幼虫数が０．３頭以上	即時		長野県
水稲	イネツトムシ	７月６半旬～８月１半旬	見取り調査	ツトが株あたり０．５個以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.

水稲	イネツトムシ	７月下旬～８月初め	見取り調査　１００株	第２世代の１齢幼虫　３頭／株	若齢幼虫期		愛媛県
作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
水稲	フタオビコヤガ	幼虫発生期（第１回目（６月下旬）・第２回目（７月下旬）・第３回目（８月下旬））	見取り調査	第１回目（幼虫数２．７頭以上／株）・第２回目（幼虫数８．７頭以上／株）・第３回目（幼虫数２６．０頭以上／株）	即時		北海道
水稲	フタオビコヤガ	第１回目（６月下旬）、第２回目（７月下旬）、第３回目（８月下旬）	１０株の幼虫被害の有無を調査	第１回目：被害株率１００％且つ被害葉率４４％以上、第２回目：被害株率１００％且つ被害葉率６５％以上、第３回目：被害株率１００％且つ被害葉率１００％	即時		北海道
水稲	フタオビコヤガ（第２世代）	６月下旬～７月上旬	平均的に発生しているほ場の２５～５０株の上位３葉を見とり調査し、被害株率と食害度を算出	被害株率が１００％かつ食害度が２５	即時	茎葉散布剤	秋田県
水稲	フタオビコヤガ（第３世代）	７月下旬～８月上旬	平均的に発生しているほ場の２５～５０株の上位２葉を見とり調査し、被害株率と食害度を算出	被害株率が１００％かつ食害度が２５	即時	茎葉散布剤	秋田県
水稲	フタオビコヤガ	中齢幼虫主体の時期（第１世代：６月上旬、第２世代：７月上旬、第３世代：８月上旬）	平均的に発生している場所の２５～５０株の食害度を調査（第１世代：株全体、第２世代：上位３葉、第３世代：上位２葉を調査）　【食害度＝（（４Ａ＋３Ｂ＋２Ｃ＋Ｄ）／（４×調査株数））×１００】	被害株率１００％で食害度２５以上（第１世代は食害度７５以上）	即時	食害程度別食害葉面積率（Ａ：５１％以上、Ｂ：３１～５０％、Ｃ：１６～３０％、Ｄ：１～１５％）	山形県
水稲	フタオビコヤガ	7月中旬	予察等調査、発生時期の虫数を調査	第３回成虫最高日誘殺数　１００頭	即時		富山県
水稲	フタオビコヤガ	出穂期	見取り調査、１圃場の任意の２５株の上位２葉について被害葉を調査	上位２葉の食害葉率　１０％	即時		富山県
水稲	フタオビコヤガ（イネアオムシ）	６月～８月	払い落とし調査、１ほ場あたり２５株	１頭／株以上	即時	・移植時の箱施用剤により初期の発生密度を下げることができる。	大阪府
水稲	フタオビコヤガ（イネアオムシ）	７月２～３半旬（幼穂形成期）	見取り調査	被害株率５０％	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県

Copyright © 日本植物防疫協会 All Rights Reserved.